



町長回誌

No.233

町長日誌の第 233 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

3月14日 (火曜日) AM8:15

昨日の夕方から雨模様となり進んでいた雪解けに拍車を掛けました。道路がこんなに乾いて雪が解けるのも珍しいことですね。明日は中学校の卒業式、23日は両小学校の卒業式と子供たちの成長を目の当たりにする季節となります。3月5日には高校入試が終わり16日に合格発表が行われますが、新聞報道などでご承知かとは思いますが、興部高校の受験者数は7名と過去最低になりました。しかも地元興部中学校からの受験はゼロとなってしまう、大変困惑しています。昨年度も興部中からは3名と激減したことから勧誘に力を入れていたつもりなのですが子供達には受け入れられなかったようで、とても残念な結果となりました。7名の受験生は西興部村と紋別市内の中学校からです。

私たち大人の都合と子供たちやご家族の思いが異なることは以前からあります。毎年行うアンケート調査においても多くの皆さんが「高校は存続すべき」と回答されるのですが、当事者になれば答えは違ってきます。町として改善すべき点を現在調査しており、4月には町民各層から意見を聴き改善策を講じるための組織を立ち上げます。何故なら、4月から中学3年生になる子供たちやご家族には大変申し訳ないのですが、来春も興部高校の入学人数が10名を切れば自動的に「募集停止→閉校」となるからです。ただし、高校が10名程度の生徒数で良いのか？というご意見もありますし、現在町では様々な支援を高校生に行っていますが町内の入学生がいないのに支援するのか？という意見もあります。また、対象となるお子さんを持ったご家庭と、そうでない町民の皆様とでは考え方は異なるものと思います。いずれにしても少子化が進む中、在って当然であった「興部高校」をどのようにすべきか興部町が考える時が来ました。決して中学3年生の子供たちの問題ではないと思います。ただ、町としては今年入学する生徒をはじめ興部高校で頑張っている生徒たちの学習支援や放課後支援などを行う「公営塾」を立ち上げ、彼らの希望を叶えるためのサポートを始めており、引き続き存続に向けて努力していますので、このこともご承知おきください。

2月28日 (火曜日)

午後2時より道庁において、経営の危機に瀕している酪農業への支援について北海道町村会で緊急要請を行いました。テレビの取材もありましたのでご覧になった方もいらっしゃると思います。酪農業は輸入飼料・石油製品・燃油などの高騰に加え、子牛等の販売価格の暴落そして減産と借金の無い農家ですら赤字になる状況なのです。今回北海道町村会では14地区の会長全員が揃って鈴木知事に直接要請しました。知事からは「道庁も皆さんと一緒に国に働き掛けていく」と発言されました。この要請では私が北海道酪農振興町村長会議(56町村加盟)の会長をしていることから皆さんを代表して①借入金元金の据え置き②需要の高いチーズ向け加工への支援および輸出促進などについて発言をさせて頂きました。この要請を受け、道庁は今年24日に東京で野村農林水産大臣をはじめ各方面への要請行動を行うことになりました。少しでも基幹産業である酪農が元気になるように努めてまいります。ちなみに興部町の酪農家戸数は68戸、乳牛頭数約12,000頭、生乳生産量65,800トン、販売額約80億円となっています。

さて、3月23日は北海道知事選告示、31日は道議選告示、投票開票は共に4月9日です。続いて、4月18日には町長・議会議員選告示、23日投開票と約一ヶ月は選挙シーズンになります。転入転出など住民票の異動もあり大変な時期と重なりますが、住民登録後3ヶ月経過しなければ、その町の選管から投票用紙は交付されません。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131です。

